

授業科目名	看護管理論 <i>Nursing Administration</i>		担当教員	田村 やよひ、大下 美智代	
開講年次	1年前期	セメスター	1	時間数(単位数)	30 (2)
必修選択	選択	授業形態	講義	使用教室	
授業の目的	変化し続ける社会の中で高度実践看護師として個人および組織を適切に機能させる管理能力を獲得するために、看護管理の基礎概念と主要な理論、管理プロセスに関する知識を得るとともに、現場における責務と役割についての認識を深め、実践場における看護管理の方法と活動を探究する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織運営に関する諸理論、看護マネジメントの諸理論、方法論について理解できる</li> <li>2. 経営・経済的視点から看護組織運営について理解できる</li> <li>3. 医療・看護の質評価の概念を理解し、高度実践看護師として看護の質向上の取り組みを考察できる</li> <li>4. 高度実践看護師として管理者との連携・調整、組織における位置づけと役割、社会への貢献について考察できる</li> </ol>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1回 組織とは (田村、大下) 組織論とリーダーシップ論</li> <li>2回 組織文化と組織改革 (田村、大下) 組織風土と組織倫理、組織分析・組織改革</li> <li>3回 看護マネジメント論① 経営管理論 (田村、大下) 科学的管理論 人間関係論と動機づけ理論</li> <li>4回 看護マネジメント論② 看護サービス管理 (田村、大下) 看護サービスとは 看護サービス管理とは 看護の質保証と評価 業務分析・業務改善</li> <li>5回 看護マネジメント論③ 医療安全管理 (田村、大下) リスクマネジメント コンフリクトマネジメント</li> <li>6回 人的資源活用論① ワークモチベーション (田村、大下) 組織環境とモチベーション・プロセス 目標管理、意思決定論</li> <li>7回 人的資源活用論② 人材育成 (田村、大下) キャリア開発とリフレクション クリニカルリーダー</li> <li>8回 人的資源活用論③ 人的資源管理と人材活用 (田村、大下) ジェネラリスト、スペシャリストの意義・活用 ナレッジ・マネジメント タイム・マネジメント</li> <li>9回 人的資源活用論④ 労務管理 (田村、大下) 看護管理と労働法令 人事システムと賃金体系、労使交渉</li> <li>10回 医療経営と看護管理① 医療福祉の経済・経営 (田村、大下) 診療報酬・介護報酬と経営 医療福祉の経済：医療福祉サービスの特徴 社会保障財政を圧迫するもの 医療福祉の経営：経営理念、マーケティング、イノベーション、 内部環境・外部環境分析 (SWOT 分析)</li> <li>11回 医療経営と看護管理② 財務管理 (田村、大下) 財務管理の体系</li> <li>12回 保健医療福祉制度とヘルスケアシステム (田村、大下) 保健医療福祉制度とサービス提供組織 地域包括ケアシステム</li> <li>13回 医療政策と看護管理 (田村、大下) 医療提供体制の改革と看護管理</li> <li>14回 高度実践看護師としての活動計画立案・発表 (田村、大下) 高度実践看護師として、管理者との連携・調整および組織における役割と責務について考え、自己の活動計画を立案し発表する。</li> <li>15回 まとめ (田村、大下) 日本の医療における高度実践看護師の役割と責務、活動について検討する。</li> </ol>				

学習方法	院生主体の参加型授業を行う。院生全員で分担し、各回の理論や概説および事例をプレゼンテーションしてもらう。プレゼンテーション担当の院生は、前週までに教員および院生に必読文献を提示すること。
オフィス アワー	火曜日の昼休み、もしくはメールによるアポイントに応じます。 y-tamura@jrckicn.ac.jp (田村)      jupiter@biscuit.ocn.ne.jp (大下)
テキスト	特に指定しない
参考文献	井部俊子・中西睦子監修：看護管理学習テキスト①～⑧巻. 東京, 日本看護協会出版会, 2004. Patricia S. Yoder-Wise. : <i>Beyond Leading and Managing</i> , St. Louis, Mosby, 2006. Sally Shaw. : <i>Nursing Leadership</i> , Oxford, Blackwell, 2007. Stephen P. Robbins. : <i>Essentials of Organizational Behavior</i> 8 <sup>th</sup> ed. 2005, 高木晴夫訳 : 組織行動のマネジメント. ダイヤモンド社, 2009.
評価方法	授業への参加度 (10%)    プレゼンテーション (40%)    レポート (50%)